

2 平成 27 年度の主な実績と今後の取組の方向性

平成27年度は、昨年度に引き続き、おおむね順調に取組を進めることができました。



取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

多くの土地所有者の方々の理解と協力を得ながら、計画の根幹である樹林地の確実な保全を進めるとともに、市民の方々と協働して良好な森を育成するための取組や、市民の方々が森に関わるきっかけとなるような様々なイベントを開催するなど森の情報発信を進めました。



取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な農景観を保全するため、水田の保全や地域の農地を管理する団体に対する支援等を行うとともに、市民が身近に農とふれあう場づくりや企業等と連携した地産地消の取組を進めました。



取組の柱 3 市民が実感できる緑をつくる

市民との協働により地域にふさわしい緑を創出する取組を進めるとともに、みなとみらい21地区から山下地区を中心とした都心臨海部で、緑花による魅力・賑わいづくりを進めました。



効果的な広報の展開

市民の皆様のご理解とご協力を得ながら取組を推進するため、様々な媒体・手法を用いて、計画や取組実績の周知やPRを行いました。

平成 27 年度の主な実績と今後の取組の方向性を、施策方針に沿ってまとめます。

(1) 市民とともに次世代につなぐ森を育む

ア 樹林地の確実な保全の推進

<平成 27 年度の主な実績>

「緑の 10 大拠点」のようなまとまった規模の緑や、市街地に残る斜面緑地などのまとまりのある緑地を保全して次世代に引き継ぐため、多くの土地所有者の方々の理解と協力を得ながら、特別緑地保全地区・市民の森・緑地保存地区などの地区指定を積極的に進め、目標の 100ha を超える緑地を新規指定することができました。

また、特別緑地保全地区等の指定地で、土地所有者の不測の事態等による買入れ申し出に、着実に対応しました。



緑地保全制度による新規指定等…102.5ha【新規指定：100ha】



不測の事態による買取希望等への対応…22.9ha【買取見込面積：19.7ha】

【 】内は平成 27 年度事業目標



- ① 緑地保全制度の指定により保全した樹林地の事例（保土ヶ谷区／境木本町特別緑地保全地区）
 ② 買取った樹林地の事例（金沢区／朝比奈特別緑地保全地区）

<取組の今後の方向性>

- 緑の 10 大拠点など緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地に重点を置きながら、身近な緑についても保全を進めます。
- 今後の目標達成のためには、これまでの取組に加え、比較的小規模な所有者へのさらなる効率的な働きかけが重要です。
- 維持管理の負担軽減など、土地所有者への支援の拡大を進める必要があります。

イ 良好な森を育成する取組の推進

<平成 27 年度の主な実績>

市民の森や都市公園内のまとまった樹林地において、森の将来像や維持管理の考え方、作業内容を定めた「保全管理計画」を策定し、生物多様性の保全や利用者などの安全確保のため、間伐や下草刈りなどの管理を進めました。

緑地保存地区等の民有樹林地の所有者に対する、住宅地との境界部等における草刈作業や危険樹木撤去に対する助成について、多くの方に活用していただきました。

また、森づくり活動を行っている団体への道具の貸出等の支援については、多くの団体に活用いただきました。



保全管理計画の策定…市民の森等 3 か所【3 か所】

まとまった樹林地のある公園 3 か所【3 か所】



緑地保全制度に指定している民有地樹林地の維持管理の助成

…103 件【130 件】



森づくり活動団体への支援

…市民の森等 延べ 23 団体【10 団体】

まとまった樹林地のある公園 延べ 9 団体【10 団体】

【 】内は平成 27 年度事業目標



①



②

①保全管理計画の策定事例（保土ヶ谷区／境木ふれあいの樹林）

②森づくりボランティア等を対象にした講座「森づくりボランティア入門講座」（緑区／新治市民の森ほか）

<取組の今後の方向性>

○生物多様性にも配慮した質の高い管理が、より多くの市民の森等や公園内のまとまった樹林地で実施できるよう「保全管理計画」の策定を引き続き進めるとともに、生物多様性の保全等、取組の周知を進めていきます。

○維持管理助成については、制度周知の機会を増やす等の取組を実施し、多くの所有者に活用いただくことで、維持管理の負担を軽減するとともに緑地指定の拡大につなげていきます。

○良好な森を育成する取組を市民協働により推進するため、森づくり活動団体や森づくりボランティア登録者のニーズを把握するとともに、森づくり活動の方向性を市民と行政が共有しながら、ニーズに合った適切な支援を実施していきます。

ウ 森と市民とをつなげる取組の推進

<平成 27 年度の主な実績>

市民の森等を利用したウォーキングイベントや市内大学と連携したイベントのほか、区民まつりなど各区の催しに合わせ、多くの市民の皆様には樹林地の魅力や保全の意義を啓発・PR し、森に関わるきっかけとなるような、さまざまなイベントや間伐材を利用したクラフト教室、広報活動を実施し、延べ 1 万 5 千人にご参加いただきました。

このうち、市内大学と連携してみなとみらい 21 地区で開催した「よこはま森の楽校～元気もりもり！横浜の森～」には、約 3,000 人にご来場いただき、森の恵みを実感いただくことができました。

また、森に関する情報発信の拠点となるウェルカムセンターでは、5 館合計で約 16 万人の来館者をお迎えし、森の散策情報やイベント情報を提供するだけでなく、森の魅力や保全の意義などを学ぶ機会をあわせて提供しました。

-  森に関わるきっかけとなるイベントや広報活動…132 回【36 回】
-  市民の森・ふれあいの樹林ガイドマップ作成…2 地域【推進】
-  ウェルカムセンター（5 館）の運営…推進【推進】

【 】内は平成 27 年度事業目標

①



③



②

- ① 森に関わるきっかけとなるイベントの事例
（「よこはま森の楽校～英和の森の自然遊び～」、緑区／東洋英和女学院大学）
- ② 市民の森・ふれあいの樹林ガイドマップ
（泉区／泉の森ふれあい樹林・中田宮の台
市民の森・新橋市民の森）
- ③ ウェルカムセンターでの運営の事例
（舞岡ふるさと村での平日探鳥会の様子、戸塚区／舞岡ふるさと村虹の家）

<取組の今後の方向性>

○今後も、ウェルカムセンターなどの拠点施設を有効に活用するだけでなく、森に関するイベントや講座の開催など、さらに森への関心を高める取組を継続して進めます。

(2) 市民が身近に農を感じる場をつくる

ア 農に親しむ取組の推進

(ア) 良好な農景観の保全

<平成 27 年度の主な実績>

水田を保全するため、水稻作付けを 10 年間継続することを条件に支援を行っています。平成 27 年度は新規に 2.5ha の水田を承認し、計 120.1ha の水田を保全しています。

まとまりのある農地を良好に保ち、農景観の保全を図るため、地域の農地を管理する農家団体に対して支援を行うとともに、農地周辺の道路・水路などの清掃活動や、景観植物の植栽・管理などの活動に対して支援を行っています。平成 27 年度はさらに面積を拡大し、718.0ha の農地を良好に維持しました。



水田保全承認面積…120.1ha（うち新規承認 2.5ha）【総計 121ha】



地域の農地の管理を行う農業者団体に対する支援
…718.0ha（55 団体）【710ha】

【 】内は平成 27 年度事業目標



①



②



③

①水田保全奨励事業により保全された水田（栄区田谷町）

②農地周辺の道路・水路などの清掃活動に対する支援（農業者団体による草刈り／泉区和泉町）

③農地縁辺部への景観植物の植栽に対する支援（ツツジの植栽・管理／神奈川区菅田町）

<取組の今後の方向性>

○今後も農家への事業周知を行い、水田の新規承認を進めて、さらなる水田の保全を進めます。

○農地の適正な維持管理に取り組んでいる農家団体に対しては、継続的に支援を行うとともに、新たな農家団体による適正な維持管理の実施を促進し、良好に維持されている農地面積の拡大を図ります。

(イ) 農とふれあう場づくり

<平成 27 年度の主な実績>

市民の様々なニーズに合わせた農園の開設や整備を 4.6ha 行い、農産物の栽培や収穫を楽しめるよう農園を拡充しました。

横浜ふるさと村や恵みの里では、農家団体が実施した農体験教室や収穫体験教室などの支援を計 89 回行い、多くの市民が農とふれあうことができました。

また、農業専用地区などの市内の農畜産物の生産現場や直売所を見学するあぐりツアーや、小学生が家族と一緒に農業を学びながら体験する連続講座を開催し、農業に対する市民の理解を深めました。

- ① 様々なニーズに合わせた農園の開設…4.6ha【5.1ha】
- ② ふるさと村・恵みの里での農体験教室等の実施…89回【100回】
- ③ 農ある横浜・あぐりツアーの実施…3回【4回】
- ④ 農体験学習講座の開催…5回【5回】

【 】内は平成 27 年度事業目標



- ①開設を支援した収穫体験農園（ミカン／泉区上飯田町）
- ②田奈恵みの里における収穫体験の実施に対する支援（体験水田／青葉区田奈町）
- ③農ある横浜・あぐりツアーでの収穫体験（浜なしのもぎ取り／青葉区鉄町）
- ④家族で学ぶ農体験講座での収穫体験（トウモロコシ苗の定植／保土ヶ谷区狩場町）

<取組の今後の方向性>

- 様々なニーズに合わせた農園の開設は、順調に推進しています。しかし、その中で開設面積が伸び悩んでいる収穫体験農園については、支援内容を拡充するとともに、農家への働きかけを引き続き行います。
- 横浜ふるさと村、恵みの里において、各地域の特色のある農体験教室等を実施するなど、農の魅力を感じることができるよう取組を進めます。
- あぐりツアーは、より市民の農業に対する理解がより深まる内容にするとともに、様々な農畜産物の旬の時期に応じて横浜の農業を紹介できるよう、事業を推進します。
- 農体験講座の開催により、作物の植え付けから収穫まで楽しみながら体験することで、引き続き農業の大切さを知ってもらう取組を進めます。

イ 地産地消の推進

(ア) 身近に感じる地産地消の推進

<平成 27 年度の主な実績>

直売所等の開設・運営支援を行うとともに、市民が直接農家と交流し、楽しみながら農畜産物を購入できるよう、青空市でのイベント実施の支援を行いました。あわせて、市内の農家が生産した苗木や花苗を区民まつり等のイベントで配布する機会を増やしました。また、地産地消の情報発信・PR活動として、イベントの実施や「はまふうどナビ」等の情報誌・パンフレットを発行し、市民に地産地消の取組を身近に感じていただくきっかけとしました。

① 直売所等の支援…11 件【10 件】／青空市の運営支援…5 件【5 件】

② 緑化用植物の生産・配布…26,108 本（171 件）【24,500 本】

③ 情報発信・PR 活動…推進【推進】

【 】内は平成 27 年度事業目標



- ① 備品導入を支援した直売所
- ② 運営を支援した青空市（みなとみらい農家朝市）
- ③ 市内産苗木の配布
- ④ 区役所での花の展示
- ⑤ よこはま食と農の祭典 2015
- ⑥ 年 4 回発行している情報誌「はまふうどナビ」

<取組の今後の方向性>

○直売所等の開設・運営支援については、支援内容を拡充するとともに、積極的な働きかけを引き続き行います。

○身近に地産地消を感じていただけるよう、さらに、様々な機会を活用し、情報発信・PR活動に取り組みます。

(イ) 市民や企業と連携した地産地消の展開

<平成 27 年度の主な実績>

地産地消を広げる人材を育成するため、はまふうどコンシェルジュの育成講座や地産地消を推進する自主的な活動の支援を行いました。

企業との連携では、市内産農畜産物を使用した新商品の開発・販売や、マルシェの開催など、積極的な地産地消の PR を行いました。

ビジネス創出支援では、育成講座や補助を実施し、市内産農畜産物を使った加工品等の商品化などの新たな事業化を支援しました。

また、第 13 回となる「はま菜ちゃん料理コンクール」では、キャベツ・コマツナを使った新しい学校給食のメニューの募集を行いました。

-  様々な団体、企業等と連携した、新たな地産地消の取組…8 件【5 件】
-  ビジネス創出支援…5 件【5 件】
-  はまふうどコンシェルジュの活動支援…22 件【20 件】
-  学校給食での市内産農産物の利用促進…推進【推進】

【 】内は平成 27 年度事業目標



①



②



③

- ①ビジネス創出支援で商品化された青みかンドレッシング（柴シーサイドファームの青みかん使用）
- ②企業との連携による市内産農畜産物を使用した新製品の開発、販売（山崎製パン株式会社 横浜第二工場）
- ③はま菜ちゃん料理コンクール本選

<取組の今後の方向性>

○地産地消を広げる人材の育成や、ネットワークの強化、ビジネス創出の支援により市民や企業と連携した地産地消の取組を引き続き推進します。

○市内産農畜産物等のブランド化を進めるため、市内産農畜産物のプロモーションを検討し市民や企業との連携により取組を推進します。

(3) 市民が実感できる緑をつくる

ア 市民が実感できる緑を創出する取組の推進

<平成 27 年度の主な実績>

民有地では、多くの市民が目にする場所や効果的な場所の緑化、地域で親しまれている名木古木の保存など、緑の創出・保全に取り組む市民・事業者を支援しました。

公共施設・公有地では、南区総合庁舎や金沢区総合庁舎の緑化など、多くの市民が利用する地域の公共施設から率先し、市民が実感でき、生物多様性の向上や地域の良好な景観形成につながる緑を創出しました。

 民有地における緑化の助成…5件【13件】

 公共施設・公有地での緑の創出…22か所【16か所】

【 】内は平成 27 年度事業目標



- ①民有地における緑化の助成の事例（西区みなとみらい四丁目）
- ②公共施設・公有地での緑の創出の事例（南区／南区総合庁舎）
- ③公共施設・公有地での緑の創出の事例（港南区／横浜藤沢線）

<取組の今後の方向性>

- 民有地における緑化の助成については、5件にとどまりました。より多くの市民が緑化に取り組んでいただけるよう、引き続き、市民や建築及び緑化関連事業者の方々に、助成制度を積極的にPRしていきます。
- 名木古木の保存や人生記念樹の配布については、順調な進捗となりました。引き続き、制度を活用いただけるようにPRを行い、名木古木を守り育てるとともに、人生記念樹の配布による市内の緑化を推進します。
- 公共施設・公有地では、目標を上回る箇所緑が創出されました。整備した緑を良好に維持しながら、引き続き創出を進めていきます。
- いきいきとした街路樹づくりでは、引き続き、都心臨海部の街路樹や区の代表的な街路樹について、高木のせん定に加え、低木の刈込や除草などの管理をより充実させ、街並みの美観向上を進めていきます。

イ 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進

<平成 27 年度の主な実績>

市民協働により、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現するための取組を進めました。

次世代を担う子どもたちが身近な緑と親しみながら成長できるよう、子どもを育む空間である保育園・幼稚園・小中学校での園庭・校庭の芝生化やビオトープの整備など、緑の創出を民間施設と公立施設を対象に支援しました。

多くの市民が訪れる都心臨海部の公共施設を中心に、緑や花による空間演出を展開し、エリアごとの特色を出した整備を進めました。

 地域緑のまちづくり…26 地区（うち新規 4 地区）【28 地区】

 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出…32 か所【20 か所】

 都心臨海部の緑花による賑わいづくり…整備 4 か所【推進】

【 】内は平成 27 年度事業目標



- ①地域緑化計画に基づき緑化整備した事例（青葉区／柿の木台地区）
 ②民間保育園の緑化（芝生化）の事例（保土ヶ谷区／エルアンジュ保育園）
 ③都心臨海部での緑花の事例（中区／山下公園）

<取組の今後の方向性>

○地域緑のまちづくりでは、取組地区数は 26 地区となりました。引き続き、その地域ならではの緑のまちづくりを市民と協働で進めるとともに、新たに募集する地区においては提案計画作りの支援などを進めます。

○子どもを育む空間での緑の創出については、目標を上回る実績を達成しました。引き続き、園庭・校庭の芝生化だけでなく、ビオトープ整備や樹木の植栽などにより、子どもたちが生き物とふれあう場ともなる多様な緑の創出に取り組んでいきます。

○都心臨海部の緑花による賑わいづくりでは、都市公園や港湾緑地などで、質の高い緑や花の整備や管理を行いました。引き続き、高質でボリューム感のある緑と花のネットワーク形成を目指しながら整備を進め、あわせて質の高い管理にも取り組んでいきます。

(4) 効果的な広報の展開

ア 市民の理解を広げる広報の展開

<平成 27 年度の主な実績>

市民のご理解とご協力を得ながら取組を推進するため、財政局や区役所とも連携し、広報よこはまへの記事掲載や実績概要リーフレットの回覧、その他交通広告やイベントの開催など、様々な媒体・手法を用いて、計画や取組実績の周知や PR を行いました。

平成 27 年度は、親しみやすいマスコットキャラクター「横浜みどりアップ葉っぱ^はー」を制作し、様々な場面で活用することで、より「みどりアップ」に関心を持っていただけるよう、広報を進めました。



- ①交通広告掲出の様子（横浜市営地下鉄）
 ②農と緑のふれあい祭りの様子（環境活動支援センター/保土ケ谷区）
 ③広報よこはま 9 月号の紙面

<取組の今後の方向性>

- 『「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査』の結果、若年層の「横浜みどりアップ計画」、「横浜みどり税」の認知度が低い傾向にあることが分かりました。また、「広報よこはま」や「交通広告」の活用が効果的であることが分かりました。これらの結果を踏まえ、今後下記の取組を進めます。
- 幅広い年代に広報効果を見込める「広報よこはま特別号」への記事掲載や実績概要リーフレットの回覧を継続して行い、計画の概要及び事業実績の周知を進めます。
- 若年層や納税者層への PR が期待できる交通広告を活用し、幅広い層への広報・PR を行います。
- 10 月、11 月の「みどりアップ月間」を中心に年間を通じてイベントを開催し、計画の周知に努めます。
- 事業箇所表示や横断幕の掲出、その他メールマガジンやソーシャルメディアを活用した広報など、引き続き多様な手法で計画の周知を進めます。
- 横浜の緑の魅力、横浜みどりアップ計画の取組内容及び実績をより効果的に周知するため、新たに制作したプロモーションビデオを活用した広報を進めます。
- マスコットキャラクター「横浜みどりアップ葉っぱ^はー」を活用した広報を進め、より「みどりアップ」の取組に親しんでいただけるよう PR を強化します。

